

国際化学肥料ニュース（2026年3月）

肥料業界の2026年3月動態

- * 3月2日、エジプトのNCIC社は3月販売分の肥料販売入札を発表した。販売種目と数量は、DAP1万トン、重過リン酸石灰1万トン、大粒尿素1万トン、硝酸石灰1.5万トン。3月4日締切りとなる。

- * 3月4日、カタールの国営カタール・エナジー社は3月の硫黄FOB価格520ドル／トンを設定して、2月のFOB価格と同じであることを発表した。元々3月1日に発表する予定だったが、中東の地政学変動により、3月4日に延期した。

- * 中東紛争が起きた後の3月2日、エジプトの尿素メーカーMopco社はFOB505ドル／トンで6000トン大粒尿素を販売し、AlexFert社もFOB495ドル／トンで小粒尿素6000トンを販売した。紛争前の価格より約10～15ドル／トン上がった。

- * インドネシア政府は2026年に尿素、化成肥料などに20%の肥料補助金制度を継続すると発表した。補助金は政府指定される最高小売価格内に抑えるように肥料工場または輸入業者の出荷時に支払う方式（HET）を採用する。2026年の補助金対象肥料の数量は955万トンと設定されている。

- * 中東紛争が起きた後、サウジアラビアのMaaden社はFOB730～735ドル／トンで東南アジアに4.5～5万トンDAP、FOB710～712ドル／トンでパキスタンに4～4.5万トンDAPを販売した。紛争前の価格より約15～30ドル／トン上がった。

- * インドと大手加里メーカーとの間に行っている2026年塩化加里輸入基本契約は難航して、3月中旬まで合意できる可能性が極めて低い。インド加里肥料最大手の輸入業者IPL社は基本輸入契約のCFR価格が360ドル／トン以下にならないと、合意する可能性が低いと発言した。インドは1～2月にスポットで塩化加里を輸入して、国内に供給している。1月に約43万トン塩化加里を輸入して、その内訳はロシアからの輸入が80%、イスラエルからの輸入が12%、ヨルダンからの輸入が8%であった。

- * クウェートの国営硫黄生産会社KPCは、3月のクウェートの硫黄FOB価格を520ドル／トンで決定した。これは、カタールの国営カタールエネルギーとアブダビの国営アドノックがすでに発表した3月の硫黄価格と同じである。なお、アメリカとイスラエル

のイランへの軍事行動により、ホルムズ海峡が事実上に閉鎖され、中東の硫黄輸出は大部分が停滞している。

- * アメリカとイスラエルによるイランへの軍事行動を受け、3月第2週の東南アジア産大粒尿素的の FOB 価格が 700 ドル/トン以上に急騰した。ベトナムの Ca Ma 社は4月積み込みの大粒尿素 3~4 万トンを FOB700 ドル/トンでオーストラリア向けに販売した。マレーシアの Petronas 社も5月積み込みの大粒尿素的を FOB700~750 ドル/トンを要求している。3月第1週(2~8日)の FOB 価格が 650 ドル/トンであった。なお、東南アジア産大粒尿素的の FOB 価格が紛争開始前の2月最終週に 485~497 ドル/トンであった。

ブルネイの BFI 社は3月と4月出荷分がほぼ完売しており、インドネシアの Pupuk 社はまだ販売入札を発表していない。また、短期的に中国尿素的の輸出可能性が非常に低く、アジア地域の尿素的供給がひっ迫の状況となっている。

- * 3月11日中国武漢で開催された中国春季窒素肥料市場分析会において、中国窒素工業協会から 2026 年中国国内窒素肥料の生産と需要に関する予測が出た。

2026 年新たに 507 万トンの尿素的生産能力が完成し、中国の尿素的生産能力が 2025 年末の 7245 万トンから 7750 万トンに増加する。2026 年の尿素的実生産量が 7650 万トンに達すると推測される。その一方、尿素的の国内需要量が約 6600 万トン、そのうち訳は肥料用 4300 万トン、肥料以外 2300 万トン、約 1000 万トンの尿素的が余る状況になる可能性が高い。また、2026 年中国農業分野での窒素肥料需要量 2571.8 万トン (N 換算)、りん酸肥料需要量 1110.4 万トン (P2O5 換算)、加里肥料需要量 1312.3 万トン (K2O 換算) と予測されている。

- * 中国窒素工業協会の統計データによれば、2025 年中国アンモニア生産量が 6.1%増の 7768.7 万トン、窒素肥料生産量が N 換算で 6.8%増の 5256.3 万トン、尿素的実生産量が 7.1%増の 7201.3 万トン。国内窒素肥料製品の消費量が N 換算で 0.7%増の 4425.1 万トン、そのうち肥料としての消費量が 6 割以上。2025 年中国窒素肥料輸出量が N 換算で 68.6%増の 934 万トン、そのうち尿素的実輸出量が 1780%増の 489.4 万トン。しかし、窒素肥料業界の純利益総額が 75%減の約 20 億人民元 (約 2 億 8500 万ドル) しかなく、製品売上の平均利益率が 1.0%、47.1%の窒素肥料メーカーが赤字を計上している。

- * イランへの軍事行動が発生した後、3月第2週にサウジアラビアの Maaden 社はアルゼンチンに CFR815~820 ドル/トンで 1.5 万トン MAP を販売した。ホルムズ海峡が

通航止めとなっているが、貨物の出荷方法について詳細は明かさなかった。また、モロッコの OCP 社はブラジルには CFR800~805 ドルで 3 万トン MAP、ブラジル以外の南米（多分アルゼンチン）に CFR810~820 ドル/トンで 5 万トン MAP、CFR645~650 ドル/トンで過リン酸石灰 1 万トンを販売した。これらの貨物は 4 月の出荷予定である。

- * イランへの軍事行動により、3 月 13 日現在、カタールとイランのアンモニアと尿素工場の操業停止に加え、ペルシャ湾沿岸のアラブ首長国連邦、サウジアラビア、バーレーンからの出荷も事実上停止している。これらの湾岸諸国で尿素の大規模な生産削減の報告はないものの、在庫の積み上がりによって厳しい決断を迫られるのではないかという懸念は依然として残っている。

中東以外では、エネルギー関連の課題が顕著に表れており、インドの尿素生産量は天然ガス供給の制約によって脅かされているほか、パキスタンとバングラデシュでも生産削減が行われている。また、インドの RCF 社が 2 月に行った尿素国際入札で契約された中東産尿素 50 万トンの供給可否状況は不透明である。

2 月 28 日の軍事行動が発生する前に、3~4 月の世界尿素貿易に供給は既に逼迫していた。中国産尿素の輸出不可に加えて、ホルムズ海峡が事実上封鎖されている状況下では、世界中の買い手は選択肢がほとんどなく、困難な立場に置かれている。日を追うごとに、事態の深刻さは増して、2022 年ロシアによるウクライナ侵攻時に起きた世界肥料価格高騰の再来を危惧している。

- * 東南アジアのブルネイの尿素メーカー BFI 社は 3 月 12 日に開札された尿素の販売入札で FOB710 ドル/トンで 6000 トン大粒尿素を販売した。貨物は 3 月末から 4 月上旬まで積み込みが予定されて、そのうちの 25,000~30,000 トンはオーストラリア向けのものである。オーストラリアは通常、尿素の 2/3 以上が中東オマーンから輸入しているが、イランへの軍事行動により、輸入が途絶えている。インドネシアや中国からの尿素の入手も不可な状況で、マレーシア、ブルネイ、ベトナムから調達せざるを得ない。オーストラリアの尿素価格は軍事行動後少なくとも 45% 上昇しており、今週のジーロングの FCA 価格は 1,200 オーストラリアドル/トン(1,377 ドル/トン)に達した。

- * 中国税関の速報によれば、2026 年 1 月の中国化学肥料輸出量が 14.7% 増の 257 万トン、その内訳は尿素 31 万トン、硫酸 145 万トン、DAP1 万トン、MAP3 万トン。2026 年 2 月の中国化学肥料輸出量が 2.5% 増の 249 万トン、その内訳は尿素 11 万トン、硫酸 143 万トン、DAP1 万トン、MAP6 万トン。1~2 月の尿素は輸出割当枠が残った関係で前年より 10367.4% も増えて、硫酸、DAP と MAP も若干増えた。

一方、2025年1月の中国化学肥料輸入量が28.9%増の165万トン、その内訳は塩化加里152万トン、NPK化成肥料10万トン。2026年2月の中国化学肥料輸入量が36.9%増の167万トン、その内訳は塩化加里155万トン、NPK化成肥料9万トン。

2026年1～2月の中国化学肥料輸出金額は10.8億ドル、輸入金額12.32億ドル、久しぶりに貿易赤字が発生した。

* 海運コンサル会社 Kpler のデータによれば、ホルムズ海峡の封鎖で、3月17日現在、21隻計98万トンの化学肥料またはその原料を積載している船がペルシャ湾内に滞留している。その内訳は9隻計46.3万トン尿素の船、8隻計30.3万トン硫黄、2隻計10.5万トンりん安の船、2隻計11万トンアンモニアの船である。

中東湾岸諸国から年間3000～3800万トン尿素、2200～3000万トン硫黄、500万トンりん安、350～400万トンアンモニアがホルムズ海峡を経由して輸出されている。硫黄国際貿易量の半分以上、尿素国際貿易量の約3割を占めている。特にアジア地域では40%の尿素、54%の硫黄と71%のアンモニアの輸入が中東湾岸地域に依存している。ホルムズ海峡の封鎖が長期にわたる場合は世界の肥料貿易に大きな打撃を与え、2022年のように世界肥料価格高騰再来が避けられない。

* サウジアラビアの Maaden 社はホルムズ海峡の通航困難を受け、紅海の Yanbu 港を通じたりん安の輸出再開を目指している。サウジアラビアは通常ペルシャ湾東部の Ras Al-Khair 港からりん安などを輸出しているが、ホルムズ海峡を通過しなければならない。Maaden 社はトラックを使って、Ras Al-Khair の生産施設から Yanbu 港までりん安を輸送することで、4月からりん安の輸出を正常に戻させる計画である。

* エジプトの肥料メーカー NCIC 社は3月15日に締切りの肥料販売入札の結果を公表した。落札価格は FOB335 ドル/トンで2.5万トン過リン酸石灰、FOB620～630 ドル/トンで1500トン硫酸加里である。中東の緊張情勢を受け、今回の過リン酸石灰と硫酸加里の落札価格が大幅に上がった。

* 3月16日、ロシアは大手肥料メーカー Acron 社の生産子会社 PJSC 社の Smolensk 市にある窒素肥料工場が2月下旬にウクライナからのドローン攻撃を受け、火災が発生したことで生産が全面停止となったことを発表した。生産再開は5月の予定である。PJSC 社の Smolensk 窒素肥料工場の年間生産能力約200万トンである。

* サウジアラビアの Maaden 社は FOB760～770 ドル/トンでエチオピアに5万トン DAP を販売した。貨物は東海岸の Ras Al-Khair 港ではなく、紅海に面したサウジアラ

ビア西部の Yanbu 港から積み込み・出荷されるため、ホルムズ海峡を迂回することになる。Maaden 社は、3月第2週に、南米向けに1.5万トンのMAPを販売した。このMAPは、1月に契約したラテンアメリカ向けの4万トンのDAP/MAPと纏めて出荷される予定である。これにより、4月Yanbu港からのDAP/MAP輸出量は約10万5000トンとなり、ホルムズ海峡の通航止めが続ければ、Yanbu港からの輸出数量はさらに増加すると予想されている。

- * アメリカとイスラエルによるイランへの軍事行動により、世界の尿素価格はペースが鈍化しているものの、上昇し続けている。主要な輸出国のスポットFOB価格がトン当たり700ドル以上で推移している。黒海沿岸、ブルネイ、マレーシア、エジプト、ナイジェリアの生産者は積極的に製品を売り込んでいる。トレーダーはポジションの拡大に意欲を示しているが、リスクははるかに高くなっている。

3月20日はナイジェリアのDangote社が4月出荷分としてFOB700ドル/トンで3万トン大粒尿素を販売した。エジプトも先週後半から3万トン以上の尿素をFOB710～720ドル/トンで販売した。

- * アメリカとイスラエルによるイランへの軍事行動により、世界のアンモニア貿易量の5分の1が影響され、世界のアンモニア相場は緩やかに上昇し続けている。需要側が代替品の調達に奔走する中、アメリカの新たな生産能力が西側諸国への悪影響を緩和している。

Profercyのデータによると、2025年中東からのアンモニア輸出量は、平均して月間約31.5万トンで、これらのアンモニア輸出はほとんどホルムズ海峡を通過する必要がある。サウジアラビア、カタール、イランの主要輸出国の輸出は、上流の生産施設への被害と、船舶がホルムズ海峡を安全に航行できなくなったことの複合的な要因により、紛争開始以来途絶えている。これにより、昨年平均で月間約4.5万トンを輸出したオマーンが、今のところ中東唯一の生産国兼供給国となり、2万5400トンの貨物がまもなくインド西海岸に向けて出荷される予定だ。

中東からの供給がほぼ途絶えたため、買い手や貿易業者は、近年比較的豊富な供給量を有する東南アジアと北東アジアから、ますます大量の貨物を求めている。Profercyのデータによると、中国1月と2月のアンモニア輸出量は前年同月比で大幅に増加し、前年同期の約7.5万トンから約12.5万トンに達した。同時期に、インドネシアからの出荷量は約30万トンに達し、前年比で10%増加した。4月積みのスポット貨物について、FOB価格で最大550ドル/トンに上昇し、中東紛争前の取引価格から15～20%の値上げとなった。

一方、西側諸国では供給状況は概ね良好で、アメリカのテキサス州にあるウッドサイド・エナジー社の年間 110 万トンの新工場からの最初の輸出貨物として約 2.5 万トンは、早ければ 3 月下旬にも積み込みが開始される予定である。また、テキサス州にあるガルフコーストアンモニア（GCA）施設の操業再開が間近に迫って、西側諸国の需要を緩和することに役立つはずである。

トルコは紛争以前からイラン産アンモニアを大量に輸入していた。紛争開始後、トルコはロシア産アンモニアを求めているものの、第 2 四半期に到着予定のロシア産アンモニアの新規販売情報はまだ確認されていない。

- * インド肥料協会（FAI）の最新統計データによれば、2025 年 4～12 月のインド化学肥料販売量 5771 万トン、その内訳は尿素販売量 3116 万トン、NP と NPK 化成肥料販売量 1174 万トン、DAP 販売量 800 万トン、過リン酸石灰販売量 471 万トン、加里肥料販売量 177 万トン。国内化学肥料生産量が尿素 2244 万トン、NP と NPK 化成肥料 927 万トン、DAP 303 万トン、過リン酸石灰 443 万トン。

旺盛な肥料需要に対応して、2025 年 4～12 月の化学肥料輸入量が大幅増加した。尿素輸入量が 85.3%増の 800 万トン、化成肥料輸入量が 121.8%増の 329 万トン、DAP 輸入量が 45.7%増の 595 万トン、加里肥料輸入量が 22.4%減の 214 万トン。

- * インドネシアの Pupuk 社は 2026 年下期（7～12 月）の DAP 国際入札を発表した。3 月 27 日締切、後日開札と契約である。契約予定数量は 17.5 万トンで、その内訳は Gresik 港揚げ 7 万トン（7 月から 11 月にかけて 1 万～2 万トンずつの 4 回納入）、bontang 港揚げ 4.5 万トン（7 月から 11 月にかけて 1.5 万ずつの 4 回納入）、Boom Baru 港揚げ 4 万トン（7 月から 12 月にかけて 5000～1 万トンずつの 8 回納入）、Tanjung Priok 港または Cigading 港揚げ 2 万トン（7 月から 11 月にかけて 2 万ずつの 2 回納入）と要求される。

2 月 28 日から始まったイランへの軍事行動以降、硫黄など原材料価格の上昇、DAP 供給の不安、急騰する運賃が世界的な DAP 価格を急激に押し上げている。DAP の CFR 東南アジア価格は 2 月 26 日の 730～750 ドル／トンから 3 月 19 日に 800～850 ドル／トンに上昇した。今回の入札も高値の応札と予想されている。

- * エジプトはイランへの軍事行動によりイスラエルからの天然ガス供給が中断されたことを受け、尿素生産と輸出が続けることを表明した。エジプト政府は、外貨準備高の維持、インフレ抑制、供給安定を図るため、高騰した天然ガスのスポット価格を支払い、国内需要を抑制するうえにも輸出に重点を置いているようである。

エジプトは年間 720 万～730 万トンの尿素生産能力を有しており、生産量の約半分を国内市場に割り当て、月間約 35 万～40 万トンを輸出に振り向ける。2023 年から 2025 年の 3 年間に平均で年間約 450 万トンの尿素が輸出された。2026 年 1～4 月の輸出可能量が 140～160 万トンと見込まれている。ただし、尿素メーカーは今のところ天然ガス供給停止などの影響を受けていないものの、業界全体がより広範なガス管理政策から完全に隔離されているわけではないことを認めており、供給制約が続けば生産量が圧迫されるリスクが高まっていると指摘している。

- * ノルウェーの Yara 社はオーストラリアの西オーストラリア州にある Pilbara アンモニア工場が技術的な理由により計画外の操業停止に追い込まれ、メンテナンス作業には 4～6 週間がかかることを発表した、Pilbara アンモニア工場は年間生産能力 85 万トン、主にクイーンズランド州にある世界的な爆薬製造会社 Orica 社の Yarwun 工場に供給するほか、東南アジアや北東アジアにも多量輸出される。

Profercy のデータによると、2025 年 Pilbara アンモニア工場が生産したアンモニアのうち、約 37 万トンが輸出され、そのうち北東アジアに 18.2 万トン、タイに 4.7 万トン、インドネシアに 1.8 万トン、残りはインドとチリに輸出された。ホルムズ海峡の封鎖に加え、東半球の短期的なアンモニア供給見通しはさらに悪化する恐れがある。

- * 中国政府は国内農業需要を最優先に供給するため、2026 年 8 月までにりん酸肥料の輸出を禁止することを正式に通告した。この通告は 1 月末に中国国家発展改革委員会の名で非公開に税関とりん酸肥料メーカー、大手輸出商社に伝達したもので、最近になって公になった。
- * 3 月 25 日、ロシアは硝安の輸出を 1 か月完全停止することを発表した。ロシア農業省の発表によれば、4 月 21 日までに硝安の新規輸出申請を受付しないこと、すでに輸出許可が下りたが、まだ通関されていない貨物の輸出通関を許可しないことである。ロシアは世界の硝安貿易量の約 40% を占めて、輸出停止により、硝安の国際市況が高騰することが予測される。
- * 3 月 25 日、中国税関は硫安を除くすべての化学肥料の新規輸出申請を受付しないことを通告した。すでに輸出を申告して、まだ通関されていない肥料も一律輸出許可しない。これにより、尿素、塩安およびすべてのりん酸肥料、加里肥料、化成肥料の輸出が一時停止することになる。

* 中東アブダビの国営企業 Adnoc 社は 4 月出荷の硫黄 FOB 価格を 3 月より 70 ドル高い 600 ドル/トンに設定することを発表した。中東は世界の硫黄貿易の約 50% を占めているが、ホルムズ海峡の実質的な閉鎖により海上輸送が止まっている。現在、中東の硫黄供給は海上保険料の上昇や納期の不確さにさらされて、一部の買い手は今後の原材料供給を確保するために予約を望んでいるため、継続的に硫黄の価格を設定している。

* インドの RCF 社はイランへの軍事行動により尿素の供給と輸送が妨げられることを理由に、2 月 18 日に開札された尿素国際入札に基づく出港期限を 3 月 31 日から 4 月 30 日に延期することを発表した。RCF 社は 2 月 18 日の尿素国際入札に 131 万トン尿素を購入したが、そのうち 30 万トンを積み込んでいる 7 隻の船（カタール産尿素 3 隻、サウジアラビア産尿素 3 隻、バーレーン産尿素 1 隻）がホルムズ海峡の封鎖により、ペルシャ湾に立ち往生している。なお、約 52 万トン尿素がまだ出港されていない。

中東湾岸のカタール、サウジアラビア、UAE、バーレーンは通常月間約 100 万トン尿素の輸出があり、世界尿素貿易の約 20% を占めている。Kpler の追跡データによると、3 月 31 日現在、少なくとも 91.9 万トン尿素を積んだ 21 隻の船舶がペルシャ湾に滞留しているという。

* 中国は当面硫安の輸出を規制せず、そのまま継続すると予想されているが、市場参加者によれば輸出数量割当制の導入可能性は依然高い。インドネシアのパリ島で開催されている Argus Asia 肥料会議の参加者は中国硫安の輸出が今後も続く可能性が高いと述べた。

中国政府は尿素とりん安の輸出をすでに停止して、3 月 13 日に北朝鮮への肥料輸出に関する税関検査が開始し、3 月 25 日から塩安などの化学肥料輸出も一時停止した。化学肥料の輸出再開時期は不明である。

大手各社の営業業績

肥料資源の探索と肥料プラント新規建設

* オーストラリアの Wesfarmers Chemicals, Energy & Fertilisers (WesCEF) 社は西オーストラリア州 Kwinana 工業団地に硝酸プラント 1 基を増設し、硫安などの硝酸塩化合物の年間生産能力を 80 万トン以上に拡張する。

* アメリカの TalusAg 社は、CFS 社および CleanCounts 社と協力して、共同でミネソタ州に小型のアンモニア生産施設 Talus10 を建設することを発表した。TalusAg 社はモ

ジュール化された超小型アンモニアプラント **Talus10** を開発して、すでにアイオワ州を拠点とする農業協同組合 **Landus** と協力し、2025年初頭に1日1トンの地元アンモニア生産プロジェクトを完了した。今回は **Talus10** 超小型アンモニアプラント 2基をミネソタ州に導入する。地元の風力発電と水力発電を利用して、最大 20 トン/日のグリーンアンモニアを生産し、地域の農作物生産に必要な肥料や発電用アンモニア燃料を供給するという。

* オーストラリアの **Hiringa Energy** 社と **Sundown Pastoral** 社はニューサウスウェールズ州の **Moree Farm** に建設中の再生可能エネルギーを利用する **Good Earth** グリーン水素・アンモニアプラントが間もなく完成し、稼働が始まると発表した。当該プロジェクトはニューサウスウェールズ州で最初の大規模グリーン水素・アンモニア生産施設で、総投資額 7,000 万ドルを超えるこのプロジェクトに州政府が 4,520 万ドルを拠出している。グリーン水素・アンモニアプラントが完成後、年間 4500 トングリーンアンモニアを生産して、地元の **Sundown's Keytah** 綿花農場に供給し、窒素肥料として使用される。余った量が地域の他の農家に供給されるという。

* 中国湖北省の応城新都化工社は新設のアンモニアと尿素プラントが完成し、稼働が始まると発表した。当該アンモニアと尿素プラントは湖北省応城市にあり、石炭を原料にして、年間 70 万トンアンモニアと 60 万トン水溶性化成肥料、40 万トン緩効性化成肥料の生産能力がある。

* 中国の雲岡控股社は広西省貴港市に新の窒素肥料工場の建設を表明した。その計画では年間 200 万トンアンモニア、300 万トン尿素、120 万トン化成肥料の超大型窒素肥料工場で、総投資額 159 億人民元（約 22.7 億ドル）、3 期に分けて、第 1 期の投資額 10 億人民元、2026 年着工、2027 年に完成する予定である。

* オランダの **OCI Global** 社はアメリカテキサス州 **Beaumont** 市に建設した低炭素アンモニア工場（**Beaumont New Ammonia (BNA)**）の性能試験を完了し、正式に **Woodside** 社に引き渡されたことを発表した。BNA の投資額約 18 億ドル、年間アンモニア生産能力 110 万トン、生産過程に排出される二酸化炭素の 98%が回収・留置されるいわゆるブルーアンモニアを製造する。

その他

- * 3月7日付のトルコ大統領令により、尿素に対する6.5%の輸入関税が撤廃された。今までにエジプト、カタール、マレーシアの3か国を除くほかの尿素原産国から6.5%の輸入関税を課していた。

トルコは国内の尿素産業が貧弱で、輸入尿素に大きく依存しており、2023～25年度に年間平均280万トンの尿素を輸入している。2025年の尿素輸入量約270万トンの内訳は、イランから約44%、エジプトから約24%、ロシアから約13%であった。ほかにトルクメニスタンとウズベキスタンからも約30万トンを入力した。2月28日からイランへの軍事行動により、イラン尿素の輸入が途切れた。国内需要を満たすために、輸入関税を撤廃して、多くの輸入ソースを開拓する必要がある。

- * デンマークの再生可能エネルギー開発会社 Copenhagen Infrastructure Partners (CIP) とドイツの水素企業 Hy2Gen は、ノルウェーで開発中の240MWのグリーン水素・アンモニアプロジェクトを中止すると発表した。

ノルウェー南西部 Sauda で計画されていた Iverson eFuels プロジェクトは、ノルウェーの電力事業者 Statnett 社が計画している Utsira Nord 洋上風力発電から270MWの電力供給を受けて、年間20万トングリーンアンモニアの生産を目標としていた。2024年から建設が開始し、2027年完成・稼働する予定であるが、Statnett 社の Utsira Nord 洋上風力発電から撤退することを受け、余儀なく中止に追い込まれる。

- * オーストラリアの爆薬会社 Dyno Nobel 社は所有の Hill りん酸肥料工場をオーストラリアの Mayfair 社の完全子会社 Ryowa II GPS 社に最大1億オーストラリアドル（約7000万ドル）で売却すると発表した。ただし、売却の最終決定は、Dyno Nobel 社、Mayfair 社、クイーンズランド州政府およびオーストラリア競争消費者委員会の間に4月1日までの合意にかかっていると Dyno Nobel 社は述べた。同社によると、売却が失敗した場合、Dyno Nobel 社は2026年9月30日までに Hill りん酸肥料工場を閉鎖すると述べている。

Dyno Nobel 社は、Hill りん酸肥料工場の売却を通じて肥料事業を分離し、爆薬事業に集中するという。

- * アメリカの農務長官 Brook Rollins 氏は、イランへの軍事行動による窒素肥料の価格急騰に対応し、春シーズンを前に肥料コストを抑えるために「あらゆる手段」を検討していると述べた。

アメリカとイスラエルによるイランへの軍事行動が勃発した後、アンモニア、尿素、硝安などの窒素肥料の価格は過去2週間に急騰している。Rollins 氏は検討中の具体的な政策措置については明言しなかったが、農家への追加資金確保に向けて議員と協力し

ていると述べた。アメリカ農務省（USDA）は2025年12月に最新の農業援助パッケージを展開し、今年2月末から支払いが開始される予定である。

- * EUは2026年のある時期から1年間に限って、ロシアとベラルーシ以外の国と地域から輸入されるアンモニア、尿素およびその他の窒素肥料に対して輸入関税を免除することを検討している。その目的はEU農家の施肥コストを削減し、農業生産を助けることである。ただし、ロシアとベラルーシからの輸入化学肥料に対する関税（例えば、尿素に対して6.5%プラス40ユーロ/トンの関税）を免除しない。

この肥料輸入関税の一時停止案はすでに1月にEU委員会の担当者が提案して、全加盟国の投票を待って、2026年5月1日から施行される見通しである。肥料の輸入関税一時停止により、約6000万ユーロの関税収入が減少する。

- * 3月19日、アメリカ連邦議会の上院に於いて窒素、りん酸、加里肥料製品の製造業者および卸売業者に対し、価格と数量を毎週公表することを義務付ける超党派の法案が提出された。この「2026年の肥料透明性法」はミネソタ州選出のAmy Klobuchar上院議員（民主党）とサウスダコタ州選出のJohn Thune上院議員（共和党）によって提出され、アイオワ州選出のChuck Grassley上院議員（共和党）とウィスコンシン州選出のTammy Baldwin上院議員（民主党）も同調している。

ほかにミネソタ州選出のAmy Klobuchar上院議員（民主党）とカンザス州選出のRoger Marshall上院議員（共和党）は共同で国内肥料生産の拡大と肥料貯蔵能力の改善を目的とした助成金・融資プログラムを創設する「自家栽培肥料法」をも上院に提出した。

- * イランへの軍事行動による世界石油と天然ガス供給不安の状況を受け、インド政府は「2026年天然ガス供給管理法令」を頒布し、化学肥料業界を天然ガス供給の優先Sector-2枠に入れて、化学肥料工場に過去6か月平均消費量の70%以上の天然ガスを確実に供給する。

また、インド化学肥料省は最新の肥料在庫数量を発表した。3月中旬現在、前年同期より36.6%増の1801.2万トンの化学肥料在庫が確保されている。その内訳はDAP 251.7万トン、NPK化成肥料563万トン。また、3~5月の3か月間にさらに170万トンの輸入尿素が到着する見通しである。

- * イランへの軍事行動が起きた後、南米向けのりん酸肥料価格が急騰した。アルゼンチンのDAP/MAP価格は3月19日の中間時点で825ドル/トンに達し、2022年8月以来の最高値となった。モロッコ産MAPのCFRアルゼンチンが860ドル半ばから900

ドル半ばを要求している模様。また、4月から5月にかけてアルゼンチン南部に出荷されるロシア産4万トンMAPのCFRは最高910ドル/トンに達する見込みである。

GTTのデータによると、南米アルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイは過去5年間に亘って、1~5月に平均59.9万トンのDAP、MAPとTSP（重過リン酸石灰）を輸入した。Argusのデータによると、今年1~5月にブラジルを除く南米向けのスポット市場で最大48.8万トンのDAP、MAPとTSPが販売され、その多くがアルゼンチン、ウルグアイ、パラグアイ向けのものである。その中には9.5~10万トンのサウジアラビア産DAPとMAPが含まれる。また、4~5月にさらに2.5~3万トンのDAP、MAPとTSPが契約、輸入されると予測する。

* 3月30日、EU委員会はEUの国家補助規則に基づき、フランス政府が肥料分野向けに再生可能な低炭素水素を生産するHyforSeeds社に1億4400万ユーロの支援金を交付することを承認した。HyforSeeds社は水素製造会社Hynamicsの子会社で、フランスのHaut-Rhin県Ottmarsheim-Chalampéにある肥料・工業用化学品メーカーLAT Nitrogen社の敷地内に50MWの電解槽を設置し、低炭素水素を製造する。生産される低炭素水素をアンモニア合成に使用され、年間46,000トン以上のCO2排出を回避できると見込まれている。

* オーストラリア連邦政府は、アメリカとイスラエルがイランへの軍事行動で生じた肥料輸入への影響を制御するためにオーストラリア肥料協会（Fertilizer Australia）と全国農民連盟（National Farmers Federation）を統合して新たな機構を設立することを発表した。オーストラリアの尿素輸入量の約3分の2は中東から調達するもので、新機構は、当局と連携して肥料供給の調整・監視を行い、可能な限り代替輸入先の発見を行うことが含まれる。

オーストラリアは主要な穀物輸出国で、これから始まる栽培シーズンに十分な尿素在庫を確保しているが、その後の追肥や次シーズンにはさらに多くの尿素を確保するが必要だと市場関係者は述べている。3月26日尿素のCFRオーストラリア価格が1350~1420オーストラリアドル（945~994ドル）/トンなり、1週間前より90オーストラリアドル（63ドル）も上昇した。